

科目名	学校教育心理学特論	担当教員	仁平義明
科目属性	専門科目 A	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業の概要】</p> <p>「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」という教育基本法に記載されている「教育の目的」が示すように、学校が知識伝達・知識形成の場であると同時に、テキストの題「こころを育てる」場であることを理解するのが、この特論の底に流れるテーマだといえる。</p> <p>とくにこの授業は、学部段階の教育心理学の教科書でほとんどあるいは深くは扱われなかった「格差」「子どもの心の回復力（レジリエンス）」「いじめ」「早期教育」「幸福感」など学校教育の背景にある重要な問題について学修する。</p> <p>(1) まず、授業計画にそってテキストの各章・節の内容を熟読し、理解する。</p> <p>(2) 必要に応じて参考資料を自分でもダウンロードしたりして読み、知識を広げる。</p> <p>(3) 求められた課題をレポートにまとめ、教員からのフィードバックによって、理解を深める。</p> <p>(4) スクーリングでは、最新の状況について実験データなど根拠となる資料を知るとともに、研究法についても学習する。</p> <p>(5) 科目修得試験では、教科書、レポート、スクーリングでの学習を総合した知識を問う問題に答える。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>「学校教育心理学特論」は、学部段階の「教育心理学」の基本的な知識を、学校場面に特化して理解を深めること、あるいは学校場面だけでなく学校教育をとりまく環境についても理解をすること、また、学校の現場で対応しなければならない問題の解決をはかるスキルの基礎を形成することを目指している。さらに、必要となったときには、教科書、文部科学省や教育委員会の指導書、マニュアルや参考資料に頼るだけでなく、学校場面での教育心理学的問題を解明し解決する方策を自分でも研究し、見つけられるようになることも大事な目標である。このように、大学院での学校教育心理学特論の学修は「研究的視点も持った実践家」(researcher-practitioner)になることを目指している。</p> <p>本年度の授業では、とくに学校教育の背景にあるさまざま教育心理学的な問題を理解することが目的である。</p> <p>授業のテーマと到達目標は次の通りである。</p> <p>(1) 【幼児期と児童期の接続】 幼児期からの子育てと児童期以降の学力の関連など、幼児教育と初等教育のつながりを広い視点から見るができるようになる。</p> <p>(2) 【格差・落差】 読書の問題を中心に、学校間・家庭間の格差・落差がなぜ生まれるか、どのような結果を生むのかを考えられるようになる。</p> <p>(3) 【心の回復力（レジリエンス）】 子どもたちが、強く長く続くストレスから心の健康を回復するには、どのような条件が必要かを知り、支援の方策が可能になる。</p> <p>(4) 【いじめ】 いじめの効果的な対応と予防を考えられるようになる。</p> <p>(5) 【発達に合わせた環境】 発達障害の子どもに合わせた教室環境を設定できるようになる。</p> <p>(6) 【早期英語教育】 早期英語教育の効果について、エビデンスに基づいて考えられるようになる。</p> <p>(7) 【幸福感】 幸福感の要因としての教育の重要性を理解する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回：家庭環境や保育と語彙力等との関連を理解する。</p> <p>第2回：しつけスタイルが後の時期の語彙力、学力、親子のコミュニケーションにどのような影響を与えるか、さらに幼児期の語彙力が児童期の学力とどう関係があるかを理解する。</p> <p>第3回：①日本が格差・学校間格差が大きな国であることを理解する、②読書にかかわる学校間</p>			

差がなぜ生まれるかを知り、学校教育の中での読書の役割を理解する。

第4回：「心の回復力」という考え方とその対極にある「心の強さ」（ハーディネス）という概念との違いを理解する。

第5回：強い持続的なストレスからの精神的健康の回復（心の回復：レジリエンス）に必要な条件を知り、学校が心の回復のために出来ることについて考察する。

第6回：いじめ問題を社会がどう考えるべきかを理解する。

第7回：いじめの本質はどこにあるのか、いじめを変えるために学校が何をできるか効果的な対応を理解する。

第8回：ネットいじめ対策の今後の方向を考える。

第9回：自閉症（自閉スペクトラム症）の子どもの個性の新しい考え方を理解する。

第10回：自閉症（自閉スペクトラム症）の子どものための発達環境設定の方策について理解する。

第11回：第8章「早期英語教育導入の前に考えなければならないこと」（151-176 ページ）を読んで、早期の英語教育導入のプラスとマイナスの面について理解し早期教育一般についての考え方を深める。

第12回：幸福感とは何か、幸福感に影響している要因は何かを理解し、子どもの幸福感の問題について考察する。

第13回：上記のテーマのうちから3つを選び、自分で選んだ1番目のテーマについて、ウェブの「Google Scholar」（グーグル・スカラー）で論文を探して読み、さらに理解を深める。

第14回：自分で選んだテーマのうち2番目のテーマについて、ウェブの「Google Scholar」（グーグル・スカラー）で論文を探して読み、さらに理解を深める。

第15回：自分で選んだテーマのうち2番目のテーマについて、ウェブの「Google Scholar」（グーグル・スカラー）で論文を探して読み、さらに理解を深める。

○科目修得試験

【評価方法】

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合しての評価となる。

【教科書】

子安増生・仲真紀子編著『こころが育つ環境をつくる—発達心理学からの提言』

新曜社 2014年 ISBN 978-4-7885-1375-4

【参考図書】

*以下のものは、参考書・参考資料の例であって、必ず参照しなければならないわけではない。この他にも、自分で必要な文献は検索して学修すること。

(1) 鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学（第4版）』有斐閣 2015

ISBN 978-4-641-22059-1

*学部段階での「教育心理学」を復習するのに最適なテキスト。このテキストは、平易な表現で、教育心理学の標準的な内容を網羅しており、図表が豊富なので内容が理解しやすくなっている。図表やコラムにも根拠になるデータが明示されている。

(2) 東條吉邦・大六一志・丹野義彦編著『発達障害の臨床心理学』

東京大学出版会 2010年

*発達障害について、とくに教育と臨床という観点から全体像を知りたいときには最適の書。

(3) 『児童心理』（金子書房）2014年8月号「特集：子どものレジリエンス」と、2016年1月号「特集：レジリエントな子を育てる」の2冊は、「心の回復（力）」について理解しやすい概説である。前者が完売になったために後者が発刊された。所蔵する図書館等で利用するとよい。

(4) 仁平義明（2017）「傍観者に焦点をあてた“いじめ対応”プログラムの効果量（effect size）に関する研究と実践の現状」『星槎大学紀要 共生科学研究』、13号、53-66。

*星槎大学のサイトからダウンロードできる。論文単位ではなくて、一冊まるごとのPDFになっているので注意。